

景観の保全・形成

社団法人 岡山県建築士会
地域づくりフォーラム21部会

岡山県和気郡吉永町 [調査年度：H16 年度]

建築やまちづくりの専門家の団体として、地域計画や調査事業、講演会・イベントなど、職能を活かした活動を行っている団体。この調査では、農村集落の景観保全を図るため、都市農村交流を基軸とした取り組みとしてイベント等を織り交ぜながら保全・活用方策を検討し、集落景観形成支援組織のイメージを提案した。

団体・活動概要

建築士会は、建築士およびそれに準じる者により構成される専門家の団体である。地域づくりフォーラム21部会は、岡山県建築士会内にある「まちづくり系の活動部門」であり、都市や農山村の地域計画・調査事業、まちづくり屋台村の主催、建築講演会的主催、古建築・近代建築等の実測などの活動を行っている。

活動経緯

平成15年度、吉永町八塔寺地区にある茅葺き民家の屋根葺き替えに際して、茅葺き屋根の葺き替えを伝承しながら、現代版のボランティア協働による葺き替えマニュアルのようなものが作れないか、と吉永町役場から岡山建築士会に打診があった。岡山建築士会では、平成14年に同じ東備地域内にある備前市でまちづくりイベントを開催しており、地域との関係もあったことから、建築士会内のまちづくり系活動部門である当団体が協力することになった。

平成15年度には、茅刈り体験イベント、茅葺き屋根民家の実測とワークショップを開催するとともに、茅葺き工事の全工程を記録しマニュアルとしてまとめ、ホームページ上で公開した。

調査年度の活動概要

茅葺き屋根の民家が建ち並ぶ八塔寺地区の集落景観を保全していくためには、地区の活性化を図る「都市農村交流」を基軸とした新しい実践的な取り組みが不可欠であるとして、都市農村交流型のイベントやワークショップ等を織り交ぜながら、地区の現状把握および保存・活用方策を検討し、今後の集落景観を維持・形成していくための集落景観形成支援組織のイメージを提案した。

- 対象地区の景観形成の現状と歴史的背景の調査
- 歴史的建築物の保存・活用方策の検討
- 都市農村交流型茅刈り・茅葺きイベントの企画・実施
- 集落景観調整組織の体制案の検討

活動の特徴・ポイント

民家の実測調査など建築的な専門性を活かした活動を行うとともに、農村集落の茅葺き民家の景観を保全する上での現状や課題を把握し、景観を保全するための担い手として、地区住民だけでなく都市農村交流により都市住民の新たな担い手を生み出す仕組みを提案し、その取り掛かりとしてのイベント等も実践している。東備地区での数年来の活動を通じて形成された行政や地元の人たちとのネットワークを有効に活用していることも、活動の特徴となっている。

出典：

「八塔寺地区における景観形成の推進のための調査報告書」H17.3 社団法人 岡山県建築士会 地域づくりフォーラム21部会

1 対象地区の概要

1 八塔寺地区と歴史的背景

八塔寺地区は、岡山県和気郡吉永町（合併により、平成17年3月22日からは備前市となる）の北部、兵庫県との県境をなす標高539mの八塔寺山の南麓にある地域で、行政的には「東備」と呼ばれる地域に属している。一時は山岳仏教の中心地として栄えた。地名の由来となる八塔寺は、神亀5年（728）に聖武天皇の命により、

弓削道鏡が開基した真言宗の寺院で、この寺院を中心に、檀家信徒の集落として繁栄してきたのがこの地域である。

昭和29年までは三国村という村名であり、三種の宝器、鏡・玉・剣になぞらえた、加賀美・多摩・都留岐の大字名を今も有する。近年、今村昌平監督の映画「黒い雨」のロケ地となった。

2 景観上の特性について

この一帯は、点々と建つ茅葺屋根の民家と、段上に連なる田畑やあぜ道、水車小屋、道路脇の小川のせせらぎなど、かつての古き良き面影を残すのどかな里山風景が広がっているが、その景観の維持は難しくなりつつある。まず一つは、八塔寺地区の景観形成で重要な役割を担っている茅葺き民家の減少である。昭和30年頃には、23軒の茅葺き屋根の民家があったが、昭和50年頃には14、5軒になり、現在では7、8軒に減ってしまっている。これには主として以下の原因が考えられるが、何れも現状においては即効性のある方策がなかなか見つからず、今後の適切な対策が求められる。

• 茅葺き屋根の耐久性

昔は家の北側で30～40年、南側で40～50年程度だったと言われているが、今は家の中で火（囲炉裏）をたかないため、煙が屋根裏に入らず茅の劣化が早く、せいぜい15～20年程度しかもたない。

• 茅のストックと「結い」関係

昔は八塔寺の各家では皆、屋根裏に補修等のために予備の茅を蓄えていた。屋根を葺き替える家があると、集落の各家（30～40戸）が蓄えた茅を持ち寄って、

皆で手伝って葺き替えた。屋根を葺き替えた家は、その「借り」を30～40年かかって返すというような付き合いだった。現在では、残念ながら、そういう関係はもうなくなってしまっている。

• 茅葺き屋根の葺き替えコスト

今では、一般的な間取りの民家の茅葺き屋根を葺き替えるのに400万円ほどかかる。しかし、これも葺き替えて15年ほどしかもたない。これまで本人が1/3、町が1/3、県が1/3という補助金が出ていたが、もし、こういった制度が見直され廃止になるようであれば、家主も高齢者が多い現状では、個人ではどうしようもなくなるだろう。

• 高齢化率の上昇と茅場の問題

八塔寺には共有の茅場があるが、茅刈りは1年でも途切れたら、雑草が混ざるために次の年には刈れない。地区の高齢化率が高くなり、こういった出仕事を維持する人的資源が不足しつつある。また、田畑の手入れもできにくくなれば、建物のみならず、地区全体の景観にも大きな影響が出てくるようになると思われる。



写真1

2 | 活動の経緯と目的

1 景観形成に関するこれまでのまちづくりと現状

これまで、この地区は岡山県が「八塔寺ふるさと村」として整備を行い、様々なインフラが整備されてきた。吉永町もアクセス道路の整備や、民俗資料館や八塔寺山荘、八塔寺ふるさと館等の整備と、観光振興にも力を入れてきた。他にも、県が整備した国際交流ヴィラもあり、何れも茅葺き民家を改造したものである。しかし、これらはあくまで行政による面的援助であり、八塔寺の景観

のメインとなっている農村景観自体は、そこに住む住民自らの手によって保全していかなければならないが、これまでに地元の景観保全組織等の立ち上げはなかった。現在はこの地区民の高齢化も進んでおり、これからこのような組織を立ち上げるには相当なるエネルギーが必要になろうかと思われる。

2 当団体が八塔寺地区に関わり始めた時期・契機と活動目的

平成15年4月、当年度内に吉永町八塔寺地区にある茅葺き民家の屋根葺き替えが行われるので、葺き替えを伝承し現代版のボランティア協働による葺き替えマニュアルのようなものが作れないかという話が、地元の吉永町役場他から岡山県建築士会に寄せられた。ちょうどこの1年前の平成14年に、同じ東備地域内で“国際交流セミナー『まちづくり国際屋台村 in 閑谷学校』”というまちづくりイベントを建築士会が開催しており、この地域とは少なからず関係があったので、これを機会に建築士会としても協力をさせて頂こうということになり、早速、岡山県建築士会内の「まちづくり系の活動部門」である「地域づくりフォーラム21部会」のメンバーが吉永町の担当者を訪ねたことから、この活動が始まった。その後、町側との話し合いを数回経たのち、本格的な事業に発展した。

具体的には下記のような概略スケジュールを立て、当面、着手可能な部分から実施することとした。

- ① H15年度は、事例をもとに葺き替えマニュアルを作成する。併せて、茅刈りや葺き替え時に試行型のイベントを組み込むことが可能であれば、それも計画する。
- ② H16年度以降、マニュアルを活かして各方面に呼びかけ、茅葺き屋根葺き替えイベントを行う。
- ③ 八塔寺では、これまで建築的な調査や民俗学的な調査があまりできていないので、可能であれば平成15年度に葺き替えを行う家を実測調査し、実測図を作成する。
- ④ 上記の実測や茅葺きマニュアルを、HPで公開する。

実際には、平成15年12月に共同の茅場にて茅刈り体験イベントを実施し、平成16年1月と2月で、茅葺き屋根民家の実測（各種図面の作成）とワークショップを開催した。続いて、茅葺き工事の全工程を定点観測として毎日、当部会のメンバーが交代で記録し、それを技術マニュアルとしてまとめた。最後にこれらの成果をHPにもまとめ、平成16年3月に公開した。

http://www.aba-momo.com/cf/hattouji/kayabuki_home.htm

3 | 活動の内容・成果

八塔寺地域の茅葺き民家保全の取り組みは、昭和40年代後半より岡山県が補助金を出す形で行政主導にて行われ、30年強に渡って継続されてきたが、財政難による補助金打ち切りが確定的となりつつある現在、国内の

先進事例も示す通り、地区の活性化策を計画するには「都市農村交流」を基軸とした新しい実践的取り組みが不可欠である。そのため、私たちは大別して4項目の活動を行った。

1 対象地区の景観形成の現状と歴史的背景の調査

まず、景観形成の現状把握とふるさと村開村以来の具体的事例を伴う歴史的背景を理解するための調査を実施した。

1) 茅葺き建物現況調査

八塔寺地域には、大小26戸、納屋・倉庫等の付属棟を含め40棟あまりの茅葺き屋根を持つ建物が現存する。

そのうち、公共の（もしくは公共的）建物が4割を超え、住居の用としては10棟が数えられたが、そのうち定住者のいる棟は4棟、残りの6棟は現在空き家となっている。今回の調査では、茅葺きの屋根を有する建物に限定して外観目視および平面計測による調査を行った。

調査の結果、茅葺き屋根を持つ建物に限っても、八塔寺山荘・民宿寿光庵・国際交流ヴィラなどの宿泊機能を持つ体験交流型施設、民俗資料館や八塔寺公園内の諸施設をはじめ、公共的建築物の割合が非常に高いことがわかった。建物管理状況としては、その公共的建築物や定住者がいる住居、あるいは管理者がいる建物はおおむねA評価※となっているが、空き家となった住居または倉庫等B評価6戸、C評価が3戸であり、合計9戸は全体の1/3を超える。葺替え、補修の先延ばしはかえってコスト高を招くだけに、早急な対策が望まれる。外観は、屋根形状はそのほとんどが入母屋（一部に切り妻・寄棟）で、一部棟廻りおよび下屋に瓦葺きの併用が見られた。外壁は真壁構造に板張りや土壁塗り、あるいはしっくい塗りが大部分を占め、B・Cランクの評価にかかわらず、ふるさと村としての景観保全のコンセプトは守られ続けていると言えよう。

※建物管理の状況—茅葺き屋根の保存状態に重点を置いて、下記基準にて3段階にて評価している。

A—良好な保存・管理状態。居住可能状態。

2) 茅場状況、茅場位置調査

「茅場」とは、屋根に葺く茅を特に育てておく場所である。山間部の八塔寺地域では、ススキが用いられる。地域には数ヶ所の茅場が存在するが、全国的な里山減少傾向の例に漏れず、当地の茅場も減少しつつあり、ふるさと村内の茅葺き屋根葺替えの適切な需要に対しては圧倒的に供給不足である。

地域内の茅場はそのほとんどが町有地となっており、地元住民が管理を行っている。屋根葺き材として使用できるススキを採取するには、毎年刈り取る必要があり、茅場は放置すると異種の種子が混入し、良質の茅を採取できなくなる。ゆえに地元住民は刈り取り範囲を、暗黙の権利、暗黙の了解で分け合っているようだ。自邸屋根

3) 聞き取り調査

吉永町長・吉永町産業建設課長（いずれも2005年1月19日当時）より行政サイドの立場から、また、地元からは、ふるさと村村長・地域住民（70代男性）より聞き取り調査を行った。

山の端は穏やかな起伏に富み、大小の茅葺き屋根をもつ民家や農地が美しい風景をつくりだす八塔寺地域には、

B—部分的な修復、補修にて居住可能。

C—全面的な修復が必要、または修復不可能。現在のままでは居住不可能。

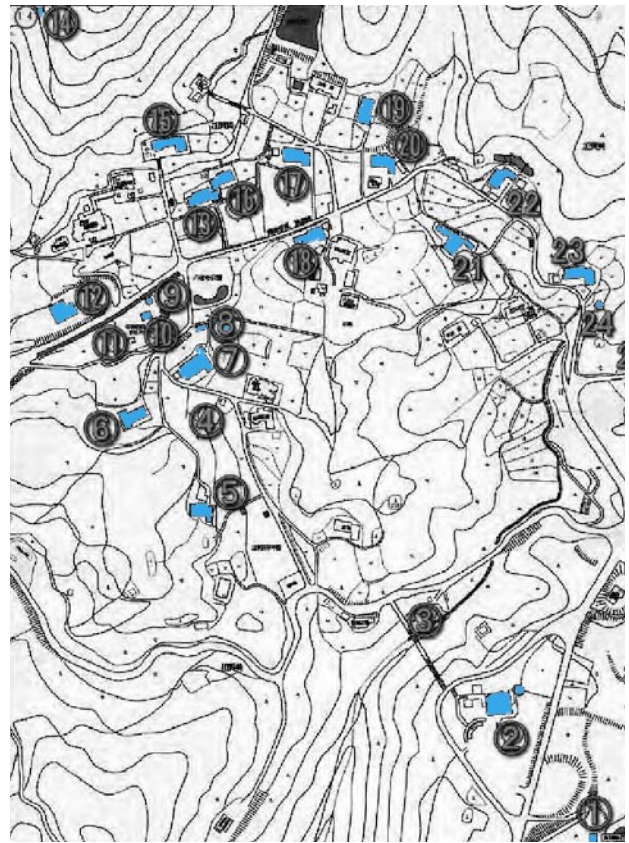


図1 茅葺き建物位置図

の葺替えに備えて毎年茅を刈り取り、ストックしている住民もいるが、刈り取った茅を屋根施工会社に売る行為も横行している。



写真2

交流を目的とした公共的諸施設も多く立地し、さらに景観醸成のための新設施設も整備されてきた。しかし、観光資源として整備されたこの地域の恩恵に浴するの、県や町がその経費を負担し管理を委託した交流施設の受託経営者に限られているのが現状である。

聞き取り調査、あるいは地域での数々の意見を聞くと、行政・地域住民・受託経営者の三者が全く異なるベクト

ルを持ち、相互に不満を持ちつつ風通しが悪く、連携・協力しようとする意識は感じられない。むしろ、背後には消えて無くなってしまえばよい、との声もうっすらと聞こえる。

都市農村交流は、都市生活者と農村部の住民双方が、

経済的・心理的魅力を感じることができなければ成立せず、交流による喜びや刺激を得るためにも住民が一丸となって取り組む必要がある。ことにこの地域には、交流による利益が地域に還元されるシステムを構築できるような実践的試みが不可欠といえよう。

2 歴史的建築物の保存・活用方策の検討

景観要素となる建築物のうち、とくに重要な建築物の今後の保存・活用方策について実測等を行い、併せて地

域住民や事業者等を対象としたワークショップを開催し検討した。

1) 八塔寺民族資料館実測調査

平成17年1月30日(日)

昨年度の松山邸、茅葺屋根の葺き替えに続いて、本年度は吉永町の施設である八塔寺民俗資料館の屋根葺き替えが予定されていることから、資料館の現状を記録し、資料として残すため実測調査を行った。

三班にわかれてそれぞれの棟の間取り調査、高さの寸法測定を行い、平面図、立面図、断面図を作成した。また外構は平板敷地測量を行い、配置図を作成した。



写真3 実測状況

2) 八塔寺茅葺きアイデアワークショップ

平成17年3月13日13時30分～16時30分

岡山県和気郡吉永町八塔寺「寿光庵」において、「八塔寺茅葺きアイデアワークショップ」を開催した。今回のワークショップは、①事前のアイデアの公募、②ワークショップの班毎ディスカッションによるアイデアの審査、班毎の審査結果の発表、③さらにこのアイデア審査を踏まえての、実現可能な方策のワークショップという三段階の構成とした。

- ・開会・趣旨説明
- ・民俗資料館実測調査報告
- ・八塔寺地区景観シミュレーション
 - *プレハブ住宅が建った場合のシミュレーション、屋根材の色彩をグレー系に統一した場合のシミュレーション結果を提示
- ・京都府美山町茅葺き景観調査報告
 - *調査の概要は「4) ①京都府美山町調査」参照

●アイデアワークショップ

第1部 アイデアコンクール公開審査ワークショップ

- ・グループ審査&審査員審査

ワークショップに先立ち、八塔寺の茅葺き屋根の保全・活用を図るためのアイデアを募集し、本ワークショップにおいて、審査・発表を行った。

八塔寺茅葺き屋根・景観の活用と保全に関するアイデアコンクール
～茅葺き屋根のなつかしい風景を後世に残すために～

吉永町八塔寺地区には、今でも茅葺きの建物が20軒程度残っています。訪れる人がまるで後醍醐朝のような風景を堪能することが出来る岡山県内唯一の集落です。しかし、過疎や少子高齢化をはじめとする様々な社会背景の中で、この地区の茅葺き屋根の景観も存続の危機を迎えています。このなつかしく、やすらぎのある風景を後世に残すことは、我々現代人の大きな役割ではないでしょうか。そう言う共同認識のもと、当地の「茅葺き屋根」や「景観」の維持と保全について、新たに住む人も訪れる人も、それぞれが出来る役割を見出すために、このたびアイデアコンクールを開催します。

八塔寺地区の景観 関係HP <http://www.akizono.or.jp/kyokan.htm>

●応募対象
・八塔寺地区茅葺き屋根の清掃・保全に関するアイデアをA3紙以内(4～6枚程度)までとまとめて提出してください。
・アイデアは絵画、イベント、展示、情報誌などジャンルのもので構いません。
・作文、図画、イラスト、写真集、表現方法及び制作材料は自由とします。

●締め切り
2005年3月10日(木)必着

●提出先(郵送でも可)
応募者の所属に、応募者の住所、氏名、所属先、連絡先を記入し、TEL、E-mailを記入したの申請書に添付してください。
社団法人岡山県建築士会事務局 〒700-0824 岡山市内山下1-8-19 TEL086-233-6871

●賞
優秀賞(八塔寺地区の特産品5千円程度)5点

●審査方法
学識経験者、八塔寺地区の住民等の審査により選考します。(3月中旬頃予定)

●その他
- 賞金・賞品の事前の申し込みは特に必要ありません。
- 応募資格は一切問いません。(子どもも、大人も、県内の方も、県外の方も応募できます。)
- 応募作品は、八塔寺地区茅葺き屋根の清掃・保全に関する資料として、主催者(社団法人岡山県建築士会)が自由に活用できるものとします。
- 審査結果は、主催者のホームページに公表するほか、直接入選者本人に連絡します。

主催 社団法人岡山県建築士会 地域づくりフォーラム 21部会
後援(予定) 岡山県建設地方協議会 吉永町 吉永町工芸 八塔寺ふるさと村
お問い合わせ 社団法人岡山県建築士会 地域づくりフォーラム 21部会
八塔寺茅葺き屋根景観調査委員会 委員長 林康宏
(林康宏建築設計事務所 TEL086-236-4511 E-mail: yarutono@jpb.com.net.jp)

図2

5つの班に分かれて熱心な議論が行われ、班ごとに3案を選出した。一方、審査委員は個別に5案を選出した。その後、5つの班のリーダー・サブリーダー、審査員が選出案と選出理由を発表した。投票は「茅葺き民家」にちなみ、茅の穂を作品の上に置く方法で行われた。



写真4 審査委員による投票
(茅の穂を作品の上に置く)



図3
1位 八塔寺お花畑構想 (きせかえキット付)
中村 陽二さん

「お花畑」という、華やかで解りやすいイメージ、特産物づくり、そして、決心すれば実行できる実現性の高さから評価された案である。

第2部 今後できること+組織づくりワークショップ

・グループ検討

グループ内で八塔寺の茅葺き屋根の保全・活用に関して、今後すぐにもできることと、それを進めるための組織について検討し、出た意見を用紙にまとめた。

・各班発表

- 1班：八塔寺に人が住んでもらうにはどうしたらよいか議論した。受け入れ組織として、大家組合を提案。
- 2班：「茅葺き愛好会」の結成を提案。茅葺きの空き家が2棟ある。地元の人、都会の人、不良中年により、愛好会を結成し、毎月1～2回の会合（飲み会）を行う。飲んだ後は良いことをして帰る「一泊一善」。春は花畑づくり、夏秋は農作業、冬は茅刈りをする。
- 3班：在来の組織を活かし、IターンUターンで人口を増やす。そのためには、Uターン対象者に直接手紙を出す。住みたいという意識を高めるため、住みよい環境を創出する。具体的な方策として、Iターン定住者芳村家の裏に薬草園を作り、運営してもらおうというアイデアを提案。
- 4班：八塔寺ふるさと村が、東備地区の他の市町のイベントに比べてPRまだ不十分だとして、「ふるさと村の大イベント 春まつり、秋のイモほり」を

強くPRしていく提案。地元でイベント強化委員会を結成し、茅葺きテント作り、大工さん学校、写生大会を行う。

- 5班：農村の生活を体験したい人、外部のボランティアを、特別農民として受け入れる。一方林間学校を誘致する。林間学校のために、あそび工房、生産の工房、食の工房、生活の工房を作る。また薬草、ハーブ、薬膳、薬湯をもとにした工房の計画などを提案。

・アイデアコンクール表彰



写真5 発表シーン

3) 都市農村交流型茅刈りイベントの企画・実施

今後の茅葺き材料の確保体制・内容等を検討するために、茅葺き屋根の葺き替えをキーワードにした都市農村交流を模索し、交流による環境保全方策の検討を目的として茅刈りイベントを開催し、記録を作成した。

①プレイベントの実施 (2005年2月20日)

プレイベントでは、茅葺き材料の確保と茅葺きの体験という観点から、実際に「茅場」で茅を刈り、一定の広さの区画において採取できる茅の量、刈取りにかかった時間を測定し、自分たちで組立てた「櫓」に茅を葺いて、茅の必要量、作業時間を記録した。

②都市農村交流型茅刈りイベントの実施 (2005年3月13日)

交流型イベントの企画は、茅刈りイベント(茅刈りワーク・茅葺きテント試作)とアイデアコンクルの公開審査・アイデアワークショップの内容で行った。茅刈りイベントは、①の実験データに基づき、刈取りスペースの確保や所要時間、野外催しなどを計画した。

- ・開会・イベント概要説明 (写真6)
- ・茅刈りワーク (写真7)

茅場までは徒歩で移動。茅刈りの範囲はプレイベントと同様の広さを設定し、地元住民である芳村和男氏の指導のもとで「茅刈りワーク」を開始した。

- ・茅葺きテント試作 (写真8)

茅葺きテントの骨組みを地元の竹を使って組立て、地元住民の松山栄次氏の手解きを受けて、刈ったばかりの茅を葺く作業を参加者全員で行った。続いて葺き終わった茅葺きテントの屋根からじょうろで水をかけ、テント内部へ浸水するかどうかをテストした。茅の内部まで水が届かず、茅を伝って流れていく様子をみた参加者たちから驚きの声があがっていた。



写真7 親子連れの参加者も茅刈り初体験！

「つくろう！八塔寺茅葺きテント」
茅刈りとテント試作とアイデアワークショップ

青木町(八塔寺地区)には、今でも茅葺きの建物が20棟余りも残っています。訪れる人が来ることで、八塔寺地区の景観を体感することが出来る岡山県内唯一の茅葺きです。しかし、遠征や少子高齢化をはじめとする様々な社会背景の中で、この地区の茅葺き屋根の葺き替えの危機を懸念しています。このなつかしい風景を後世に残すことは、我々現代人の大きな役割ではないでしょうか。その役割を担うには都市生活者がこの地を訪れ、「茅」を、「茅葺き」を、理解していただくことが出来れば、交換できる取り組みが必要となってきます。そのアイデアの一端が「つくろう！八塔寺茅葺きテント」です。

開催HP <http://www.8tateji.com/ideakata.htm>

☆野外催しはヤキイモと日生直造カキの販売も！！☆

<p>●茅刈りについて 「茅」とは屋根に使う葦の総称です。「茅」という名の植物は幾つもありますが、ここでは日本にはその種で取れる葦を屋根に用いる「茅」といいます。山間から「ススキ」が運ばれてきたのが「茅」です。</p> <p>●茅刈りについて 実際に刈る(ススキ)を、カマを使って刈り取ります。ススキは刈り人海狗に注意させる場所を「茅場」といいます。種々草にする「茅山(茅葺き)」の一つが茅場。茅場は大切に守るべきです。茅場を守ることは茅場を守ることでもあります。</p> <p>●茅葺きテント(試作)について 八塔寺地区にはキャンプ場が設けられていることもあり、雑草や竹の枯れ木を除去し、実際に茅を刈り取ったテントを試作しています。同じアウトドア系の趣味活動の場が、同じような「茅」に絡んでいけるようなプログラムの一環、試行錯誤しながら行います。実際に試作します。</p>	<p>イベントプログラム 2005年3月13日(日)</p> <p>9:20 八塔寺ふるさと館前集合</p> <p>9:30 開会</p> <p>10:00～茅刈りワークと茅葺きテント試作体験</p> <p>12:00～昼食</p> <p>13:00～八塔寺茅葺きアイデアワークショップ 先達(松山栄次氏)、アイデアコンクール審査</p> <p>16:30 閉会</p> <p>※ 雨れてもよい服装・靴でお越しください。</p> <p>※ 参加費は無料です。要員は各自でお持ちします。</p> <p>※ 雨天の場合は一部予定を変更することがあります。</p>
---	---

●申込 3月12日(金)までに参加者名、人数、連絡先を水までFAX又はE-mailでお申込下さい。

特別企画 建築設計事務所 TEL:086-286-4511 FAX:086-286-4512 E-mail:yaabono@jib6.com.ne.jp

主催 社団法人岡山県建築士会 地域づくりフォーラム 21部会

後援 岡山県東部地方振興局 青木町 青木町工務 八塔寺ふるさと村

お問い合わせ先 社団法人岡山県建築士会 地域づくりフォーラム 21部会

八塔寺茅葺き屋根保存会 委員長 村瀬友(上記)

図4



写真6



写真8 薄葺きの茅でも中には漏らない

③茅刈りイベントを終えて

最終的にイベント参加者は、主催者側を含めて23名に留まった。しかし、参加者それぞれの観点で、実体験を通じて身近に「茅」に触れることができた。「茅」とは日常よく見かけるススキである、ということですら大変新鮮であったろう。茅葺き屋根保存の意義とその理解、また技術の伝承という観点からも今回のような試みが継続されることを望む。

4) 集落景観調整組織の体制案の検討

茅葺き景観形成先進地として、京都府美山町の茅葺き屋根保存地域について行政への聞き取り調査と現地視察調査を行い、その結果を踏まえ、八塔寺地区における集落景観調整組織の必要性和課題を整理した。

①京都府美山町調査(茅葺き景観形成先進地)

平成17年2月26日(土)、27日(日)

〈調査内容〉

行政への聞き取り調査(美山町教育委員会 大秦生涯学習係長)

- ・茅葺き屋根の保全施策
- ・茅葺き屋根の活用施策及び観光客の入り込み状況
- ・茅葺き職人の育成、茅場の保全 等

現地視察

- ・北地区(重要伝統的建造物保存地区)の整備状況、夜間ライトアップ
- ・美山民俗資料館、美山かやぶき美術館、郷土資料館見学



写真9 聞き取り調査の様子

●美山町北地区の茅葺き屋根保全の取り組みと効果

北地区は、平成5年に伝統的建造物群保存地区に指定され、集落全体をかつての茅葺き集落景観へと修景するために、個人の住宅の屋根の葺き替えやトタン屋根からの復元、外壁、土塀等の修景を補助制度により進めてきており、集落全体で50戸のうち茅葺き屋根は34戸にもなっている。

また、民俗資料館、民宿、広場、加工・展示販売・案内所、放水銃など様々な施設整備事業が導入され、集落景観を充実、観光客の誘致、農産物の加工販売、雇用の場の確保等の効果をもたらしている。ハード面での整備と並行して、茅の確保、茅葺き職人確保等ソフト面の施策も実施されてきた。

こうした取り組みの成果として、美山町全体の観光客の入り込み数は、平成8年度約44万人、平成12年度約50万人、平成15年度約72万人と着実に増加している。

●北地区の住民の取り組み

茅葺き集落景観の具体的な取り組みが始まったのは昭和63年の文化庁の調査の頃からであるが、当初から地区住民が「かやぶき屋根保存組合」を設立するなど、調査の受け入れに積極的な姿勢で取り組んできた。その結果、現在では、茅葺き景観の保全・活用を図る観点から集落内のほぼ全戸が属する住民組織として北区長、かやぶきの里保存会、有限会社かやぶきの里があり、それぞれが業務の特性に応じて役割分担しながら、地区住民が主体となり一体的に連携した形で事業を行っている。

集落景観の保全については、かやぶきの里保存会が集落周辺の一定の区域を定めて、看板設置規制や店舗の出店規制を行っている。集落内のプレハブ住宅新築計画について協議を行った経緯もある。また、集落内にある民俗資料館の運営も、かやぶきの里保存会が行っている。その他、有限会社かやぶきの里が運営する民宿、食堂、土産物店、工房等でも、北地区をはじめ周辺地区の地元住民がたくさん働いている。

●集落景観保全に関する住民意識

伝建地区指定から10年を経た平成15年に行ったアンケートによると、伝建地区指定を受け、厳しい規制と補助金や公共事業による整備の結果として、観光地化が進み、環境面では賛否両論があるにせよ、生活面では大きな効果が得られていると評価されていることがわかる。これは、行政が主導的に規制や誘導施策を講じたのではなく、地区住民の結束のもとで、建造物の保存と同時に集落景観の保全と活用の方策が、自主的な景観規制、茅の確保、茅葺き職人の育成、自律的な観光や農産品加工施設の運営など、総合的に進められてきた成果であると考えられる。

②八塔寺地区における集落景観形成支援組織の必要性と課題

農村景観は、単に周辺の土地利用や建造物の外観を規制や補助制度により保存しても、地域全体としての自律的な生業と生活が持続できない中では維持はできない。京都府美山町は成功事例と考えられるが、集落景観の保全と活用の方策として、地区住民の結束のもとで、建造物の保存と同時に自主的な景観規制、茅の確保、茅葺き職人の育成、自律的な観光や農産品加工施設の運営などが総合的に進められてきた結果である。

今日の八塔寺地区の茅葺き集落の美しい景観は、昭和

40年代後半からの行政主導による屋根葺き替えの支援と年間20数回の地区住民の共同作業により維持されてきた。しかし、今回の調査で明らかになったように、既に当集落の過疎と人口の高齢化は著しく、景観形成の土台となる集落機能の維持自体が危ぶまれている。

こうした中で八塔寺地区の茅葺き集落の景観を今後維持していくには、地区住民だけでは既にマンパワーやアイデアとその実践力が衰えていることから、美山町方式では不可能と考えられ、地元住民と都市住民など地区外の協力者による集落景観形成支援組織と当該組織を中心にした景観維持支援システムを構築する必要がある。

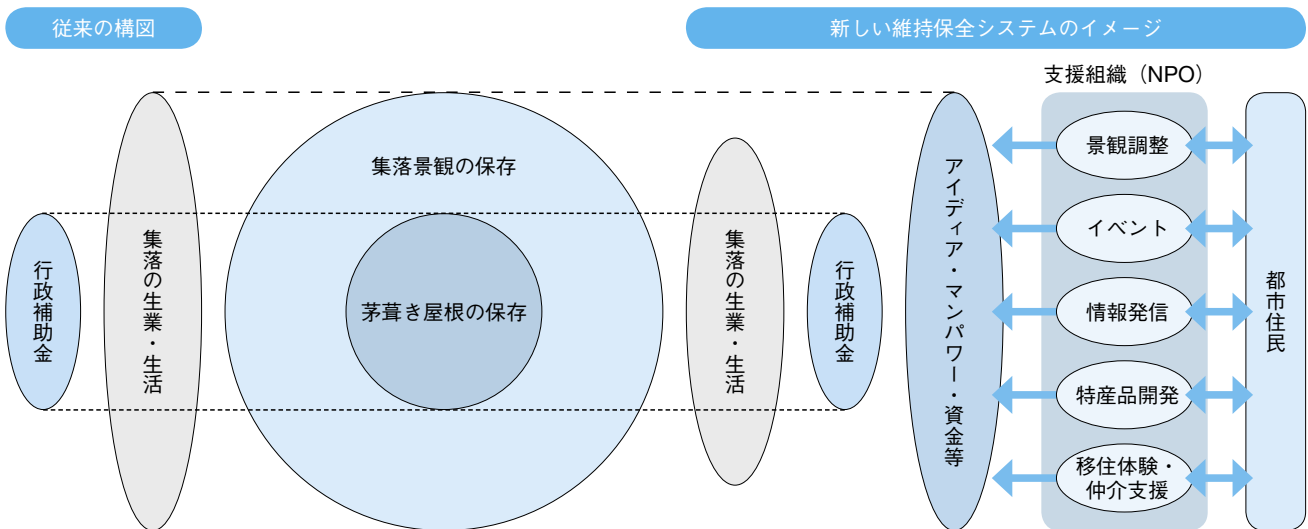


図5

●支援組織 (NPO) のイメージ

組織構成

地元住民と地区外の建築士等の専門家、学識経験者、芸術家 (写真・絵画・音楽など)、ボランティア、学生等で構成する。

景観調整

八塔寺地区において、特に集落景観形成上重要な区域を地区住民との協議に基づき設定し、条件を整えば景観法に基づく準景観地区の指定を行う。当該区域において景観の変更を伴う行為については、当支援組織の評価を踏まえて可否を判断し、必要に応じて当支援組織が事業者との調整を行う。

イベント

今回の調査で試行した茅刈り・茅葺き体験をはじめ、囲炉裏端での生活体験、田植え等の農業作業体験や味噌造りなどの農産物を使った加工品づくり体験など、八塔寺ならではの体験イベントを企画・実施し、都市住民との関係づくりを行う。

情報発信

ITにより、八塔寺の季節の移り変わりや生活の様子、農産物の生育などを紹介するほか、祭りや茅葺き屋根の葺き替え作業の様子等を実況中継する。各種イベントの参加呼びかけや、実施報告などもきめ細かく情報発信する。八塔寺のもつ景観の特性について、広く情報発信をすることにより、都市農村交流のすそ野を広げる。

特産品開発

八塔寺の薬草や農産物などを活用した特産品、キャラクター、イメージソングなど、都市住民のアイデアや昔からの知恵などを活かした特産品開発を行う。

移住体験・仲介支援

八塔寺に移住したいと考える都市住民に空き家の紹介、集落組織との仲介を行い、移住体験生活を行う機会を提供する。また、当地における田舎暮らしの先達者の経験談等もHP等で紹介し、都市住民が実際に移住しやすくなるような環境を整える。

4 | 今後の展開

昨年度の茅葺きマニュアル作成から今回の景観調査まで、ハード面やソフト面で多くの有意義なことを得ることができた。これらのことを踏まえて、今後の新しい多方面への展開につなげていきたい。

●現地調査・実測調査から得られたもの

八塔寺地区の現状調査からは、24棟の茅葺き建物の内4棟だけに住民の方々が住まわれていることがわかった。行政側のご入れにもかかわらず、ある意味での過疎化が急激に進行している。

「民俗資料館」の実測調査では、八塔寺の民家の基礎データを得ることができた。実測し、データ化して後世に残すことは、何らかの景観保存につながると考えられる。機会があれば集落全体の実測調査を行い、データ化して次のステップにつなげていきたい。

●京都美山町視察から得たもの

京都府美山町の現地調査からは、多くのヒントを得ることができた。美山町では、自分たちの生まれ育った集落景観を未来までつなげていきたいという思いが、一人一人の方々から感ぜられた。あくまで行政は、裏方に廻って支援していく姿勢が大切であり、行政の援助のみで集落の景観形成を保存するのではなく、住民自ら守っていくことが大切である。従来の茅葺き民家に住むことは、今の生活スタイルから見れば、非常に難しい面がある。外部は今までの景観を踏襲して、内部は今の生活に即したものに改修していくことが、新たな定住者を呼び込む。そのような生活スタイルにあった技術的な改修に、建築士として関わっていけるよう図りたい。

●茅刈りイベント・茅葺きイベントから得たもの

何気なく見ている風景の中にも、その材料が屋根材として使われていることや、茅の刈り取り・集積の大変さがよくわかった。「結い」の制度のない地域では、茅場の育成や刈り取りなどの新たな制度づくりが望まれる。農村における茅場の保全や森林整備は、風水害の発生を食い止めるなど、都市部の環境まで影響している。集落内のみ「結い」ではなく、都市部との交流で新たな「結い」の制度を確立していくことが大切である。

茅葺きテントの試作では、子どもたちが自ら茅を葺いて簡単な空間を作り、そこに寝泊まりするという課外学

習の提案を行った。新しい体験学習の場を提供することで、人的交流が図られると同時に、集落到経済的効果ももたらすと考える。茅刈りや茅葺きテントから新しい創造が生まれ、その波及効果として茅葺き民家の景観が保全されると考える。

●ワークショップから得たもの

ワークショップでは、多くの提案がなされた。まず、アイデアコンクールの審査を通して、地元の方々が真剣に投票したことが、今後の活動の一つになっていく。提出されたアイデア一つ一つに今後の八塔寺のあり方が隠されており、それを読み取って頂くことが大切である。

ワークショップからの提案では、八塔寺地区の最大の問題である人口低下、過疎化をいかに防いでいくかということが最優先の課題とされた。過疎化により、景観保全が難しくなっている。人の住まない住居は、住んでいる住居より建物劣化の進行が激しく、このことから新たな定住者を呼び込むことが大切であると提言を行った。

●これからの八塔寺地区に望むこと

今回の活動を通して、景観形成に関する多くのヒントを地元の方々に投げかけてきた。これらのヒントを元に、今までの行政主導型の景観形成でなく、住民自ら主体となって景観形成を行うことが大切である。道路などのインフラ整備が完了した今、新たな八塔寺茅葺き民家の景観保全を住民主体で行い、八塔寺村という組織母体を上手に運営して、新たな環境保全が生まれることを期待したい。

八塔寺地区のある吉永町もこの春、備前市、日生町と合併し、大きく枠組が変わるとともに、その意義が再度問い直されようとしている。八塔寺草葺き民家もこの枠組の中で取り残されることなく、自助努力で文化としての茅葺きの景観を保全することを期待する。

私たち建築士にできることは、最大限に活用していただければ良いと考える。設計、施工、行政などの専門分野の集合体である建築士会は、これらの景観保全に何らかの関わりを持ち続けることが大切であり、貴重な文化遺産を後世に残していけるよう、知的支援を行っていきたいと考える。